

コロナで気づかされた事 海士町立海士中学校 2年 大海匠

あなたは「コロナ差別」という言葉を知っていますか。今世界はコロナに対する困惑とコロナで生まれる差別・偏見が多発しています。その中で挙げられる例としては、両親の職場でコロナ感染者が見つかり、その両親の子どもが保育園などの利用を拒否されることや、クラスターが起きたなどのデマ情報が拡散されるなどがあります。僕はこのような事例を今までは他人事にしか捉えていませんでした。ですが半年前、ある授業でコロナの差別・偏見について学びました。そこでは、実際に海士町でコロナ感染者が出た場合、自分達はどのように行動を取れば良いか、などを皆で考えました。そこで出た意見は、感染する前とした後で、対応や態度を変えないや、感染してしまった人にやさしく接するなどが出ました。僕はその時決めたことを絶対守ろうと思いました。

そして僕は進級し、新しい学年のスタートを迎えました。陸上大会や部活動の大会も近くなり練習も精一杯がんばっていました。そんなある日、海士全体に放送が流れました。その内容は海士町内でコロナウイルス感染者が発見されたとのことでした。僕はその時、日々ニュースでコロナの事を聞いているのに改めてコロナに対して恐怖が生まれました。次の日からは学校が長期間臨時休校になってしまいました。そこでふと、どこでコロナ感染者が出たんだろうと思いました。次の日からも感染者は増え続け、それと同時にどこの誰が感染したのかなども知るようになりました。そのことを知ってから僕はあまりその地区には近づきたくないなと心のどこかで思っていました。でも、授業で絶対に態度を変えないと決めたのでそのことを口にはしませんでした。

そして、コロナ感染者の発生が落ちついた頃、学校で委員会があり、ある活動を行いました。それは新聞から最近の出来事の記事がのった部分を切り出し、学校内に掲示するというものです。僕も新聞の中から探し、切り出していると中から別の紙が出てきました。それはおそらく海士に感染者が出てから発行されたと思われるチラシでした。そこには海士弁で「もしあなたが感染したらどげな声かけてもらうとうれしいだらあか？」という問いかけが書いてありました。僕はこれを見てすごく心に響き、学校に掲示しました。それにこれは逆に考えれば自分が感染してしまった時かけてもらうとうれしい言葉は誰にとってもうれしいだろうなと思いました。それにニュースでも「私たちの敵は人ではなくウイルスという事を改めて自覚する」と言っていたのを思い出しました。僕はその時ウイルスは目に見えないので、目に見える「人」を攻めたくなくなってしまうのかなと思いました。人を攻めるのではなく言われてうれしい言葉をかけるという事を教えてくれたこのチラシは今でもいい文だと思います。それにこの文はコロナだけのためではないと思います。最近ま

た黒人差別なども聞くようになったし、日常の会話で心が傷つくことだってこれからあると思います。でもお互いにうれしい言葉を使って生活をしていれば、誰も傷つかず、いやな思いをしないのではないのでしょうか。この事をみんなが理解して差別もなく、全員幸せな社会を作っていきたいです。そのために僕は日々このことを心がけ、もし身近で人が傷つくような事があれば見ないフリをせず、助けてあげたいです。そうして小さな所から幸せを作りあげていきたいです。